



まんごく 万斛広場だより

(第 39 号)

令和 7 年 4 月 3 日 発行

編集発行

旧鈴木家屋敷跡地活用協議会（会長：岩井正次）
（浜松市積志協働センター 積志地区自治会連合会 内）

事務局

NPO 法人旧鈴木家跡地活用保存会（理事長：村木正彌）
（連絡先 村木正彌 携帯 090-1234-1877）

この 3 月 6 日、公園活動を計画し推進する 3 回目の連絡会議が開かれ、今までの呼称「万斛庄屋公園連絡会」から**万斛庄屋公園活性化協議会**と改称して、新たにスタートすることになりました。

そこで本 39 号では、各メンバーに**協議会参加への思い(期待や狙い)**を寄せていただき、**特集**として掲載することにしました。なお**各文章の小見出し**と**家康クンのひとひと言**は、編集者が代弁しました。

私たちのリーダーとして活躍している村木正彌さんが、こんな冒頭のことばを寄せてくれました

春の色に染まり始めた万斛の広場を歩きながら、こんなことを思いました

冬の黄色（少し土色した黄色）から、やや明るさが出て来た万斛庄屋公園を歩いてみました。明るい春の先駆けたる赤い花白い花、春を感じさせる梅の花、自然の営みが少しずつ見えて来ました。昨年の秋、空を埋め尽くした枯葉の大木も冬眠から覚め、春の準備が始まっています。そんな中を、ちょうど来場した子どもたちが、春を先取りするかのように大きな声で走り回っていました。

余も阿茶を連れて歩きたかったな



松川電気(鈴松庵)より

「忘れかけた日本の心を再発見」をコンセプトに、ほっこりした和みの場を提供して行きます

万斛庄屋公園は、地域の人々が集い歴史や文化を感じながら交流できる大切な場所です。弊社はこの協議会に所属する企業として、公園がさらに魅力的で地域住民にとって身近な拠点となるよう貢献したいと考えています。協議会では地域のニーズに応じたイベントの企画や賑わいづくり、そして植栽活動など、さまざまな視点から公園の活性化に取り組む多くの方々と協力し、公園の魅力を最大限に引き出そうと協議を重ねています。また地域の歴史を尊重し、世代を超えた交流が生まれることで、公園はより多くの人々に愛される場所となるはずです。

そして「忘れかけた日本の心再発見、ぐるりん童ふるさとさがし」をコンセプトに現代の人びとが触れ合うことの少なくなった日本の四季折々の伝統行事などを通じて、子どもたちを笑顔にし、ほっこりした和みの場を提供し、万斛庄屋公園が、人が集い・語り合い・共に育む場所に、そして多くの人に愛される場となるよう今後も尽力して参ります。

「鈴松庵」の食事は最高じゃよ 是非お出でござれ



庄屋の四季プロジェクトより

各種イベントの主催を通じ、地域の人々が主体となつての「賑わいづくり」ができることを目指します

〔活動内容〕「浜松市みどりの人材支援プロジェクト」の講座に参加したメンバーを中心に活動しています。講座での学びを実践する場として、万斛庄屋公園を活用したイベントを数回企画しました。

今後このような企画を継続する予定です。多くの方々にご参加いただき、豊かなまちづくり、公園を活用するスキルやノウハウを共有できればと考えています。

〔今後、万斛庄屋公園で取り組みたいこと〕地域住民参加型のワークショップやイベントの開催を 2 ヶ月に 1 回程度を目安に予定します。その中で徐々に地域の方と共にイベントを作り上げ、将来的には地域が主体となるイベントとしての「地域のにぎわい」づくりを目指します。

たくさんの遊びの企画がスゴイ！ 余も楽しむぞよ

